

壱岐島と三輪山周辺



しくみ

- 小島神社 568.40km - 三輪山山頂 - 大沼浮島 568.40km
- 一支国祭儀場跡 568.87km - 檜原神社 - 大沼浮島 568.87km
- 観上神社 569.55km - 狭井神社 - 大沼浮島 569.55km
- 八坂神社 569.43km - 国津神社 - 大沼浮島 569.43km
- 国分寺 569.63km - 倭迹迹日百襲姫大市墓 - 大沼浮島569.63km
- 鹿山神社 568.11km - 穴師坐兵主神社 - 大沼浮島 568.11km
- 大神宮山 (仮称) 568.15km - 景行天皇陵 - 大沼浮島568.15km
- 高御祖神社 567.61km - 崇神天皇陵 - 大沼浮島567.61km
- 志々岐神社 567.61km - 行灯山古墳の陪塚 - 大沼浮島567.61km
- 荒神社 567.17km - 長岳寺 - 大沼浮島567.17km
- 西間神社 567.85km - 伊射奈岐神社 - 大沼浮島567.85km
- 事代主神社 567.45km - 宝輝院 - 大沼浮島567.45km
- 長島神社 576.75km - 都塚古墳 - 大沼浮島 576.75km
- 壱岐神社 560.05km - 櫃原神宮 - 大朝日岳560.05km
- 大島神社 575.72km - 飛鳥寺 - 大沼愛宕神社575.72km



しくみ詳細

- 小島神社 568.40km - 三輪山山頂 - 大沼浮島 568.40km

左極

小島神社

祭神 伊弉册尊 (いざなみ) 軻遇突智命 (かぐつち・火の神・イザナギ・イザナミの子、生まれた時にイザナミが死んだのでイザナギに殺された) 埴安姫命 (はにやす・土の神。イザナギ・イザナミの子。イザナミが死ぬ時に便から生まれた) 壱岐のモンサンミッシェル。壱岐市芦辺町諸吉二亦触

中道角

三輪山

三輪山は、奈良盆地をめぐる青垣山の中でもひときわ形の整った円錐形の山です。古来、大物主大神が鎮しずまる神の山として信仰され、『古事記』や『日本書紀』には、御諸山 (みもろやま)、美和山、三諸岳 (みもろだけ) と記されています。高さ467メートル、周囲16キロメートル、面積350ヘクタールのお山は松・杉・檜などの大樹に覆われて、一木一草に至るまで神宿るものとして尊ばれています。

山中には神霊が鎮しずまる岩が点在し、磐座と呼ばれて信仰の対象となっています。神社の古い縁起

書には頂上の磐座いわくらに大物主大神おおもものぬしのおおかみ、中腹の磐座いわくらには大己貴神おこなむちのかみ、麓の磐座いわくらには少彦名神すくなひこなのかみが鎮しずまると記されています。

右極

大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社

ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になると思われる。

備考

奈良県の聖地と大沼浮島がどのように関わってくるかを調べると、やはり壱岐島と同距離に位置していた。最も神聖な磐座信仰の三輪山から調べてみた。小島と浮島、両極を島の神に護られていた。多くのしくみにも度々「島」がぶつかってくるが、やはり磐座信仰の時代は「岩」とともに「島」も重要な自然神だったことは確実のようだ。

■ 一支国祭儀場跡 568.87km - 檜原神社 - 大沼浮島 568.87km

一支国祭儀場跡（原の辻遺跡）

弥生時代の環濠集落で、『魏志』倭人伝に記された「一支国（いきこく）」の王都に特定された遺跡。



「祭儀場」としての機能が 想定されることとなった理由は、地形が周囲よりも1～2mほど高く盛り上がり、丘陵最高所の尾根に沿って配列された建物跡で、主軸方向がほぼ等しいこと。周辺から隔絶された特殊な空間。何らかの特別な意図があって構築されたものと考えられる。

<http://www.iki-harunotsuji.jp/wp-content/themes/notsil/pdf/23report.pdf>

長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 1 0 9 2 - 1

檜原神社 (三鳥居奥)

式内社 大和國城上郡 卷向坐若御魂神社

御祭神 天照大神若御魂神 伊弉諾尊 伊弉册尊

檜原台地に建つ檜原神社は、大神神社付近の摂社群の中では、最も北に位置している上に社格も最も高く創建も古い。天照大神が伊勢神宮に鎮座する前に、宮中からこの地に遷され、この地で祭祀されていた時代がある。伊勢神宮へ遷されると、その神蹟を尊崇して、檜原神社として引き続き天照大神を祀ってきた。そのため、この神社は広く「元伊勢」の名で親しまれている。

寛政年間の台風によって、檜原神社は大きな被害をこうむり廃墟と化してしまっただが、廃墟のまま祭礼は行われてきた。戦後になって、現在のように整備された。三輪山の中にある磐座をご神体に行っているため、檜原神社には本殿はなく、拝殿もない。だが、大神神社では見えなかった三輪特有の「三輪鳥居」とその奥にある神籬（ひもろぎ。神霊が降臨する時の臨時の宿り場所。小さめの樹木や岩石が選ばれる）などが再建されている。

奈良県桜井市三輪 奈良県桜井市大字三輪 1 4 2 2

大沼浮島 ※上記参照

備考

前頁でも取り上げたが、壱岐の最も神聖場所とつながるしくみなのでここにも紹介する。

■ 観上神社 569.55km - 狭井神社 - 大沼浮島 569.55km

観上神社

祭神/素盞鳴尊(すさのおのみこと)、奇稲田姫命(くしいなだひめのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと) 相殿仁徳天皇、仲哀天皇、神功皇后、応神天皇 昭和 13 年、若宮神社合祀

石鳥居は、江戸時代に造られました。この神社は、場所を何度も移転しています。初めは、那珂郷農長の向帯田山にあり、神木の落ち葉を取ると、とても咎められたので、住吉村坪見に遷しました。しかし、それでも、咎めるので、上山信の白岩山に遷しました。その後、また、何かの理由で、今の観上川上に、遷しました。この神社には、室町中期から江戸時代初期に作られたといわれる、猿田彦(さるたひこ)と天鈿女命(あめのうずめのみこと)の、古い面があります。長崎県壱岐市芦辺町湯岳本村触 2 7 1

狭井神社

狭井神社は狭井川の畔にある大神神社の摂社で、正式な名前は「狭井坐大神荒魂(さいにいますおのみわあらみたま)神社」という。社伝によれば、創祀は垂仁天皇の時代とされている。大神荒魂神(おのみわのあらみたまのかみ)を主神として祀り、大物主神、姫踏鞮五十鈴姫命、勢夜多多良姫命および事代主神を配祀している。荒魂(あらみたま)とは、荒ぶるような猛々しい働きをもって現れる靈魂のことである。戦時や災時などにあたって現れ、祭祀(さいし)を受けることによって和魂(にぎみたま)の性質に変わる。

三輪山の標高は 4 6 7.1 m である。その山頂に高宮神社があり、



信仰者の登頂を認めている。登拝口は拝殿の右側にある。社務所に願い出て、住所・氏名・入山時間・性別を記入し、登拝口で祓いをすませれば、木綿襷を肩にかけて誰でも登頂できる。ただし、往復とも指定された一本道だけを通ること、禁則地域には絶対立ち入らないことなど厳しい制約が課せられる。途中で急な坂道もあり、普通の人なら頂上まで1時間はかかるとのことである。なお、登頂は有料である。奈良県桜井市三輪1422

大沼浮島 ※上記参照

備考 三輪山神の荒御魂。とても神聖な神社。

■ 八阪神社 569.43km - 国津神社 - 大沼浮島 569.43km

八阪神社

祭神/祇園大明神（牛頭天王と素戔鳴尊の習合神）と巖島大明神、外4柱。鳥居には本居神社の掲額。

壱岐市勝本町新城東触

国津神社

宮座に右座と左座があります三輪山麓の檜原神社を氏神と称し、毎年正月2日と15日「檜原神社」と「国津神社」で荘厳講が行われる。境内から弥生時代の石鏃が出土している。祭神/《素戔鳴尊の五男神》

アマテラスの「八尺の勾玉の五百箇のみすまるの珠」を受け取って噛み砕き、吹き出した息の霧から生まれた。

正哉吾勝勝速日天忍穂耳尊まさかあかつかはやひあめしほみみのみこと、

天穂日命あめのほひのみこと、天津彦根命あまつひこねのみこと、活津彦根命いくつひこねのみこと、熊野樟櫛日命くまぬくすひのみこと 合祭神；素戔鳴尊 奈良県桜井市箸中

備考 八阪神社は小さいのでただの偶然の一致かと思ったが、どちらもスサノオの神社。



■ 国分寺 569.63km - 倭迹迹日百襲姫大市墓 - 大沼浮島569.63km

国分寺

741年（天平三年）に全国に国分寺創建の詔が発せられた。壱岐では1738年、現在地に再興。かつての国分寺跡は県の史跡。本堂には本尊の他に弘法大師像が安置されている。この像は60年に1回だけ開扉される秘仏である。壱岐市芦辺町中野郷西触725

倭迹迹日百襲姫大市墓（箸墓古墳）

第7代孝霊天皇と、妃の倭国香媛（やまののくにかひめ、意富夜麻登玖邇阿礼比売命<おほやまとくにあれひめのみこと>/緋某姉<はえいろね>/蠅伊呂泥<はえいろね>）との間に生まれた皇女である。同母兄弟として、『日本書紀』によると彦五十狭芹彦命



(比古伊佐勢理昆古命/吉備津彦命/大吉備津日子命)、倭迹迹稚屋姫命(倭飛羽矢若屋比売)があり、『古事記』では2人に加えて日子刺肩別命(日本書紀なし)の名を記載する。『日本書紀』では、百襲姫は大物主神(三輪山の神、大神神社祭神)の妻となったという。

百襲姫による三輪山伝説・箸墓伝説が記される。これによると、百襲姫は大物主神の妻となったが、大物主神は夜にしかやって来ず昼に姿は見せなかった。百襲姫が明朝に姿を見たいと願うと、翌朝大物主神は櫛笥の中に小蛇の姿で現れたが、百襲姫が驚き叫んだため大物主神は恥じて御諸山(三輪山)に登ってしまった。百襲姫がこれを後悔して腰を落とした際、箸が陰部を突いたため百襲姫は死んでしまい、大市に葬られた。時の人はこの墓を「箸墓」と呼び、昼は人が墓を作り、夜は神が作ったと伝え、また墓には大坂山(現・奈良県香芝市西部の丘陵)の石が築造のため運ばれたという
奈良県桜井市箸中

備考 国分寺なので箸墓古墳にふさわしいと思ったが、ここは江戸時代に再興した場所で国分寺跡は別にあるという。それ以前に本来のつながりのある神社があった場所なのだろうか。

■ 鹿山神社 568.11km - 穴師坐兵主神社 - 大沼浮島 568.11km

鹿山神社

祭神は、健御雷男命(たけみかづちのみこと)。境内の忠霊碑の傍らに砲弾が奉納されている。
老岐市芦辺町諸吉二亦触

穴師坐兵主神社

祭神/兵主神式内社で、旧社格は県社。元は穴師坐兵主神社(名神大社)、卷向坐若御魂神社(式内大社)、穴師大兵主神社(式内小社)の3社で、室町時代に合祀された。現鎮座地は穴師大兵主神社のあった場所である。元の穴師坐兵主神社は、垂仁天皇2年に倭姫命が天皇の御膳の守護神として祀ったとも、景行天皇が八千矛神(大国主)を兵主大神として祀ったともいう。旧鎮座地は「弓月岳」であるが、比定地には竜王山・穴師山・卷向山の3つの説がある。祭神の「兵主神」は、現在は中殿に祀られ、鏡を神体とする。神社側では兵主神は御食津神であるとしているが、他に天鈿女命、素盞鳴尊、天富貴命、建御名方命、大己貴神の分身の伊豆戈命、大倭大国魂神とする説がある。卷向坐若御魂神社の祭神「若御魂神」は稲田姫命のことでありとされる。現在は右社に祀られ、勾玉と鈴を神体とする。元は卷向山中にあった。若御魂神については、和久産巢日神のことでありとする説もある。

奈良県桜井市穴師493

備考 鹿山神社は鹿島神社だと思われる。どちらも武神。

■ 大神宮山(仮称) 568.15km - 景行天皇陵 - 大沼浮島 568.15km

大神宮山(仮称)

大神宮神社の裏山。

祭神/天照大神・應神天皇・天児屋根。大神宮神社は皇大神宮を崇拝するために藩の命令により各村に創設された神社

景行天皇陵

日本武尊の父と伝えられる第12代景行天皇の陵墓とされ、「景



行天皇山辺道上陵（けいこうてんのうやまべのみちのへのみささぎ）」として宮内庁が管理している。地区の名を取って「渋谷向山（しぶたにむこうやま）古墳」とも呼ばれている。年代は、これまでに出土した土器から4世紀後半（古墳時代前期後半）とされ、崇神天皇陵に続いて造られた大王の墓で、前方後円墳、円墳、方墳、各1基の陪塚（ばいちょう）を持ち、4世紀の古墳としてはわが国で最大規模の古墳。

奈良県天理市渋谷町

備考 大神宮の裏山が塚山あるいは島のように見え、そのちょうど真ん中なので記録しておいた。大神宮神社が創建される前はここが聖地だったのでは。

■ 高御祖神社 567.61km - 崇神天皇陵 - 大沼浮島567.61km

高御祖神社

式内社 旧村社 創祀年代は不詳。

祭神/高皇産霊神 伊弉諾尊 伊弉册尊

相殿/天日神命（天照皇大神） 天月神命（月讀大神）

延宝の式社査定以前は、熊野権現、熊野三所権現と称しており、熊本という地に鎮座していた。長崎県壱岐市芦辺町諸吉仲触9

崇神天皇陵

大和朝廷の創始者とされる第10代天皇、崇神天皇の陵墓「山辺道勾岡上陵（やまのべのみちのまがりのおかのうえのみささぎ）」として陵墓に指定され、宮内庁が管理している。地域の名を取って「行燈山（あんどんやま）古墳」とも呼ばれる。周濠を含めた全長は約360m、最大幅約230mの巨大な前方後円墳。築造された年代は4世紀後半（古墳時代前期後半）の早い時期と推測されている。

奈良県天理市柳本町

備考 壱岐は平安時代以前の古いしくみが多いので、式内社にはとらわれていないが、ここはつながった。しかも大和朝廷の創始者崇神天皇。ふさわしいつながり。

■ 志々岐神社 567.61km - 崇神天皇陵の陪塚 - 大沼浮島567.61km

志々岐神社

祭神/十城別王 武加比古王 日本武尊 壱岐市石田町南触

崇神天皇陵（行燈山古墳）の陪塚

遙拝所に続く参道の両側に2基の陪塚があり、やはり前方後円墳である。北側が北アンド山古墳（全長120m）、南側が南アンド山古墳（全長60m）で、それぞれ行燈山古墳の2分の1、4分の1の全長となっている。陪塚とは中心となる大型の古墳に埋葬された首長の親族、臣下を埋葬するもののほか、大型の古墳の埋葬者のための副葬品を埋納するために建設されたものもあると考えられている。



奈良県天理市柳本町

■ 荒神社 567.17km - 長岳寺 - 大沼浮島567.17km

荒神社

祭神/素盞鳴尊

長岳寺

天長元年（824年）に淳和天皇の勅願により空海（弘法大師）が大和神社（おおやまとじんじゃ）の神宮寺として創建したという。盛時には48もの塔頭が建ち並んでいた。

奈良県天理市柳本町 柳本町508

（参考）

- 崇神天皇陵の陪塚 0.47km - 長岳寺 - 崇神天皇陵 0.47km
- - 櫛山古墳 0.47km

櫛山古墳

柳本古墳群の一つで、行燈山古墳の後円部に接して、より山側の高い位置にある。双方中円墳という特異な墳形をしている。この特異な墳形をもつ古墳としては、他に岡山県の楯築遺跡や香川県高松市の石清尾山（いわけおやま）古墳群の猫塚古墳がある。櫛山古墳や猫塚は、古墳前期でもその後半に属する古墳で、楯築弥生墳丘墓よりも100年ほど後に築造された。

天理市柳本町



備考 カバラ使い空海により、三つ連なる古墳から力を得るかのように長岳寺が建てられている。と思ったが、元々大和神社があった場所という説もある。作られる以前からの聖地で、その後古墳は大和神社を中心にして造られたということになる。ということは崇神天皇陵に大和神社の気をひきよせるためのしくみ。

■ 西間神社 567.85km - 伊射奈岐神社 - 大沼浮島567.85km

西間神社

不明 梶崎市石田町石田西触

伊射奈岐神社

伊邪那岐神 菅原道真 式内社

延喜式神名帳にある城上郡の伊射奈岐神社に比定される。楊本天神、楊本天満宮と称し、かつては南東の山田垣内にあったといわれる。文明年間には現在地に鎮座し、楊本の総鎮守とされていた

奈良県天理市柳本町

■ 事代主神社 567.45km - 宝輝院 - 大沼浮島567.45km

事代主神・蛭兒神

荏岐市芦辺町瀬戸浦は古来漁業を生業として来た浦で、明応の頃より捕鯨が行われ賑わいを見た。明応元年（1492年）「瀬戸浦塩津岬に漁業の安全を祈るため、蛭子尊を祀った。以来この地を恵美須浦と呼ぶ。」寛永4年（1627年）「同じく瀬戸浦先川に蛭子尊を祀る」とあり、これが「蛭子迎え」の起源と言える。（現在の恵美須事代主神社と瀬戸事代主神社で、爾来この二つの神社は「蛭子様」として地元住民の厚い信仰を集めてきた）

長崎県荏岐市芦辺町瀬戸浦

宝輝院

不動滝 龍神 行場

天理市柳本町

■ 荏岐神社 560.06km - 櫃原神宮 - 大朝日岳560.06km

荏岐神社（荏岐護国神社）

祭神 亀山天皇、後宇多天皇、小式資時公、荏岐市内護国御英霊

當荏岐島民は（遺族崇敬者）、昭和3年以来当神社御創建の事業を進め、戦時下に物資困難なる時節に各方面の援助の下、昭和19年御本殿の建設を見たのでありますが、昭和23年11月3日御祭神三柱の大神等鎮座祭執行、同27年には荏岐護国神社の鎮座祭を執行し、本部護国の御英霊を安鎮し、同28年には畏くも宮内庁掌典長甘露寺受長氏より祭祀幣帛料が大前に奉尊されました。同29年には、角南造神宮局長来社、境内外等視察計画樹立され、同30年には靖国神社より奉幣あり、同31年秋11月8日靖国神社御分霊を奉遷し同時に社名併稱の事となりました。同年3月26日遺族崇敬者を以て献饌講を結成するに当りては、畏くも伊勢神宮より御稻種を下賜せられました。

荏岐市芦辺町瀬戸浦103



櫃原神宮

記紀において初代天皇とされている神武天皇を祀るため、神武天皇の宮（畝傍櫃原宮）があったとされるこの地に、櫃原神宮創建の民間有志の請願に感銘を受けた明治天皇により、1890年（明治23年）4月2日に官幣大社として創建された。

神武天皇/

日本書紀において、日本建国の地と記された櫃原。天照大神の血を引く神倭伊波禮毘古命かむやまといわれびこのみこと（後の神武天皇）が、豊かで平和な国づくりをめざして、九州高千穂の宮から東に向かい、想像を絶する苦難を乗り越え、畝傍山うねびやまの東南の麓に櫃原宮を創建されました。第一代天皇として即位されたのが紀元元年、今からおよそ2,600余年前のことです。



第一代神武天皇と皇后の媛蹈鞰五十鈴媛命ひめたたらいすずひめのみことです。神武天皇は、天照大神の天孫・瓊瓊杵尊より四代目に当たり、正式には「神日本磐余彦火火出見天皇かむやまといわれひこほほでみのすめらみこと」と申し上げます。皇后の媛蹈鞰五十鈴媛命は、大物主命の御娘

<http://www.kashiharajingu.or.jp/about/>

奈良県橿原市久米町934

大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を受けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

備考

三処とは、ほぼ二等辺三角形に位置する大朝日岳（大富）・小朝日岳（子守）・西朝日岳（女躰）ではないかと思われる。大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を受けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことの裏付けではないか。

備考 このしくみはとても興味深い。明治政府により乱立された神宮と護国神社。象徴的な橿原神宮と戦時中に創建された壱岐護国神社がつながった。偶然か大朝日岳向きの社殿になっている。しかし、新しいしくみに大朝日岳は関わってこないの、元々古いしくみに乗っかったのではないか。ということは、畝傍橿原宮は本当にこの場所にあったと考えられる。もともと壱岐護国神社の場所もしくは橿原神宮の同距離に別の聖地があるのかもしれない。と思い、探してみると、すぐ近く（北側）の恵美須漁港に恵比寿神社があった。よく見ると埋め立てされてはいるが本来は「島」だったように見える。こちらが本来のつながりかも。もしかしたら、壱岐島誕生神話（生き島神話）の八本の柱というのはこういう島も含むのでは。



■ 恵比寿神社 560.05km - 橿原神宮 - 大朝日岳560.05km

恵比寿神社

詳細不詳。壱岐市芦辺町瀬戸浦

備考

三輪山とその周辺神社のしくみに壱岐と大沼浮島が関わっていることがわかった。ただ、大神神社の正確な三鳥居もしくは磐座の位置がわからないので調べられなかった。